

## 平成24年度 第1回田原市図書館協議会議事録

日時：平成24年11月27日 午後2時～午後3時15分

場所：田原文化会館201会議室

出席者：協議会委員8名

(中尾、中島、山田、山口、光部、鈴木、加藤信、高見)

事務局3名(豊田、惣ト、天野)

### 議事内容

- ・ 開会
- ・ 館長あいさつ
- ・ 新委員紹介

協議内容に入りたいと思います。

協議1 田原市図書館の運営状況について

館長：資料により運営状況について説明

### 質疑応答

委員長：運営事業、資料収集事業について細かく説明をいただいた。この件について詳しい説明を聞きたいことがあれば伺いたい。

委員：利用率横ばいということであるが、利用してもらう人、学生たちなどに利用してもらうために何か検討しているか。

館長：それぞれの層ごとに何を求めているのか正確に把握していくことと、もうひとつ何が障害か明らかにしなければならないと考えている。事業に工夫を加えていく、よそでやっている事業でうまくいっているものからヒントをいただくということもある。

中高校生は、勉強しに利用してくれているが、資料の利用まで結びついていない。最近始めた事業で、何か開けそうなのが、iPadの貸出である。前年度国の予算で10台購入した。利用の主体と思われるのが中高校生である。ユーチューブも見ることができるし、電子書籍、インターネットの閲覧もできる。iPadから先の工夫をしていきたい。他の市町村、北海道のある市でやっていることだが、ブックスタートにきた母からの声で、小さい子がいると泣いたりして長くいられず、借りられないと

いう声がきかれ、その対策として、絵本のセットを貸し出している。これが好評で、よく借りられた。今度は生活に関連する、歯磨き、食べ方の絵本をセットにして貸し出すということを考えている。これが小さい子を持つ親たちの図書館を使いにくい障害を乗り越えるひとつの方法である。これをアレンジして、うちの図書館でも何かできないか考えている。

委員長：中高校生、高齢者の利用が少ない点に関して、小さい子向けの事業が紹介されたが、関連して他にどなたか質問ありませんか。

委員長：中学生は、近くの図書館に足を運ぶこと少ないと思う。休日時間があるが現状の中学校を見ていると、土曜日は部活は休みであるが、現実には父兄の会とかあって、運動する部活の生徒には時間とれない例がある。普段の利用は難しいのではないかな。

もうひとつタブレットの話が出ていたが、家庭に1台コンピュータがある。何か調べるといふことになると、家庭でコンピュータで調べることができてきている。学校の授業では、情報機器を指導することは割愛されている。子どもたちは、図書館より自宅で調べることが多いのではないかなと思う。身近にあるもので調べることが多くなっているのではないかな。全員がすべてではないが、社会がそうなっている状況である。

委員長：ほかに違う見解、意見ありますか

委員：過疎化により本屋が全国的に少なくなっている。困っているのが現実である。田原市では、図書をどこから購入しているか。

館長：市の書店の組合をとおして購入している。

委員：書店注文制度はいいアイデアである。町の本屋で買っていることで安心している。

館長：本屋で買える仕組みは、3年前からやっている。仕組みをPRしようということで、書式を整え宣伝している。

委員長：いずみ号・やしのみ号の貸出状況は、横ばいか？

館長：ここ数年伸びている。

委員長：本を読む機会が年齢が低ければ低いほど、人生に影響すると感じる。子どもの活動が比較的自由に時間が取れるときに読ませてあげたい。小学生の低学年がいい機会であると思う。移動図書館を楽しみにし、本を借りているが、本を読む子は、言葉が豊富である。保育園へは移動図書館は行っているのか？

館長：今は、行っていない。

委員長：学校へ移動図書館が来るのだが、たまたま親がいずみ号と一緒にいる時間があって、保育園児の親も借りたいと言っている。

館長：保育園にもと考えるが、ローテーション状況がぎりぎり、実際巡回するとなると難しいが考えてみたい。保育園は回りたいと思っている。

委員長：可能な範囲で考えていただきたい。他はよろしいでしょうか。

では、次の2 図書館の評価をお願いします。

館長：資料に基づき説明

委員長：1・2月から評価に入るスケジュールになる話がありました。意見、質問ありませんか？

委員：試行的にやられました来館者のワークショップ、試行の結果はどうであったか？

館長：5・6年の小学生10人と親3人で、3つの図書館を回ってもらった。項目として好みの本、棚の高さ、くつろげますか、展示、気に入った本はありましたか、司書の対応などを「とっても良い」「良い」「がんばろう」と3段階の評価をした。やることにより、図書館を知ってもらうPR手段ともなった。

事務局：展示は、赤羽根がいいという評価になった。評価をする10/13が子どもだったということで、やり方で子どもの心をつかんだということで有利だった。

館長：いろんな層の人にやってもらうことによって、いろいろと見えてくるものがある。

委員：中高齢者に来ていただくヒントを探る手立てとして有効となる。取り組んで下さい。

委員長：結果の分析をすると、運営状況の説明のときに、5人に1人の利用率であるという話があった。投書箱も来た人が書くとなると、20%の意見が全体の意見となると置き換えてもいいと思うが、図書館に足を運ぶ人たちがどう感じるか、足を運びたくなるという仕様にいかすという観点ならいいと思うが、幅広い層からの意見をいただくのに、いい方法はないかと思う。難しい問題と考える。

館長：アンケートでは図書館外のイベントの機会、インターネットを利用したアンケート実施というのも行い、外側からの意見も入れていきたい。ワークショップについてもやり方を工夫して普段図書館に来ないような団体の方をお願いして、その団体の方にチェックしてもらうというの也被考えられる。来てもらうための工夫が必要であると思うが。

委員：ワークショップのアンケート内容ですが、パソコンで検索できるという検索機能は使っていますか。小学生でもできるようなことなので、いいのかなと思う。

館長：年配の方に聞いてみたい。年配の方が探しにくそうなので。

委員：シリーズもので、1冊だけ無いというものがある。

館長：無くなったり破損したりするケースがある。気づかない場合や利用が少なくすぐ補充しないケースもある。

委員：i P a d 10台あるということであったが、公立図書館では、どう考えるか。利用者が多いのは、1冊しかないが、i P a dならみんなで見ることができる。

館長：電子書籍で見るということですね。普及が早く進む可能性があるのは、出版社にとって売れなくなったもの、雑誌のバックナンバーなど無料で借りられるようになるのではないか。全国でパソコンで借りられる館は、おそらく10館前後、利用まだ少ない。環境が整っていない。普及まで時間がかかると思う。

委員：朝日新聞で過去の資料をさかのぼって全部検索することができる。過去の事件などを検索できる、そういうものはどうか。

館長：朝日、日経、中日は、中央館のパソコンで記事検索できる。データベースを購入している。

4月からは、中日、朝日、農業、東愛知、東日の5紙は、郷土について見出し検索できるようになっている。記事本文は読めないが。

委員長：他はよろしいでしょうか。今後の日程をわかる範囲で教えてほしい。

館長：次は、1月下旬頃行いたい。

委員長：これで終わらせていただく。

ありがとうございました。